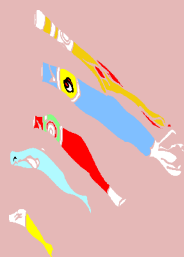


# 養護盲老人ホーム 福寿園 monthly

平成 22 年 5 月 24 日 (月) 発行 第 0 0 8 号

5 月 1 日、端午の節句の行事が行われました。端午の節句には毎年ご家族を招待し、一緒に行事にご参加いただきます。今年も親子・兄弟姉妹の仲睦まじい姿を目にすることが出来ました。



また、昨年、入所者全員の手形を鯉の鱗に見立て大きな鯉のぼりを作成しました。今年も引き続き、この 1 年間で新しく入所された方々の手形をとり、緋鯉が新たに加わりました。この記念鯉は兜をかぶった男性陣と共に食堂をパレードしました。歓声で大盛り上がりの中、皆さんの団結力を感じました。

5 月 7 日、兼ねてより入所者の皆さんが切望されていた、カラオケスナックが久々に開催されました。喫茶ホールを華やかにアレンジし、夕食後、スナックの開店です。アルコール類に、厨房職員手作りのおつまみが手頃な価格で提供されます。

理事長の参加もあり、50 名近くの皆さんが思い思いに楽しまれ、2 時間、歌もおしゃべりも絶えることなく、熱い熱い夜のひとときを楽しまれました。



## クラブ紹介 其の 4 ~クラブ~



創設当初より始まった器楽クラブは、ボランティアで 2 名の講師をお迎えして活動しています。クラブ員は約 20 名、月 2 回の練習日になると、各々が、カスタネット、タンバリン、鈴、ハーモニカ等の楽器を手に、童謡や唱歌などの演奏に取り組みます。

発表の場は、主に文化祭と市の芸能大会ですが、発表日が近づくと、和気あいあいとした中にも熱のこもった練習が繰り返されます。

「A ちゃんが居ない...。」ある日の午後、同室者の姿が見えないと、Wさんからナースコールがありました。

Wさんは 90 才。入所の頃は、人と折り合えず、何度も同室者が変わりました。Aさんは穏やかな人柄で、WさんもAさんの言う事には耳を傾けるようになりました。そして 6 年。

Aさんはいつものようにテレビを見に行っただけでした。うたた寝から目覚め、つい不安になったWさん。それに笑って「心配ないよ。」と声をかけるAさん。

そんな家族のような関係です。

~現場より~



## 福寿園の道程（6）

福寿園が開設した当時は近県に盲老人ホームがなく、静岡県や岐阜県、また他県からの入所もあり、先天性の方はもちろん、糖尿病や緑内障で失明され、病院からそのまま入所される方もありました。地域から、火元が危ない、一人暮らしが不安、と民生委員を介しての入所や家庭不和の方など・・・、入所を首を長くして待ち、念願叶って嬉々として入所された方、家族に見捨てられたと悲嘆に暮れた方、慣れ親しんだ土地を離れ、淋しさ悲しさを胸に抱いての入所、まさに様々な理由、様々な思いでの入所、まだ世間が施設に理解が薄かった時代です。

開所初日、取材のテレビカメラの前に自分の親を撮らせないように立ち開った家族。母親を想うあまり職員一人一人に一万円札を強引に握らせようとする家族。福寿園職員綱領の中には「個人的な金品の贈与は決して受け取らないものとする」とあり、お断りするのに随分時間がかかった事を記憶しています。慣れない団体生活、環境の変化、納得しないまま入所された方など、家族を憎み恨んで、随分心が荒んで、猜疑心が強く、トラブルばかり起こす人など、少なくありませんでした。名誉理事長が掲げられた「大家族の理想郷」とはほど遠いものでした。

毎日曜日の1時間ほど講話の時間を設けられ、『憎しみの心がある限り、本当の幸せにはなれない、許す心を持ち、「一日一善」どんな小さなことでも良いから自分に出来る事を実行し、天の蔵に徳を積みましょう。皆さん家族です。仲良く楽しく暮らしましょう。』と心の法則を説いて下さり、少しずつお年寄りの心が解れ、笑顔や助け合いの感謝の言葉が聞かれ、「自治会」が誕生しました。

施設長 齊藤久代

## 相談員より ~盲老人ホームの住環境について(2)~

前の号から盲老人ホームの住環境に関する工夫について取り上げてきました。今回は食堂と遊歩道について考えてみたいと思います。

食事は入所者が最も楽しみとするものです。そのためなるべく明るい雰囲気になるよう心掛けています。テーブルには季節の花を飾り、食事の準備の時間からその季節に合った音楽をかける事は食堂の明るい雰囲気作りに一役買っています。座席は指定席、椅子は背もたれつきのもので、テーブルは丸型ではなく、角型を使用しています。この方が、視覚障害者が座る位置の確認がしやすいからです。さらにテーブル、椅子共に非常に重量があるものを使用しています。視覚障害のある入所者が位置確認をする際に簡単に手で押して動くようでは目印になりません。また、椅子の背もたれには取り外しのきく手作りのカバーをかけています。このカバーがあることにより、手づかみで食事をされる入所者が、おしぼりで拭いきれなかった汚れた手を拭う事が出来ます。カバーは汚れたら洗濯をし、清潔を保ちます。そして、栄養士、調理員に食事の献立紹介をお願いしています。これは心をこめて調理して下さる厨房職員の声を知り身近に感じていただくためです。そして、目で料理を楽しむことのできない方々にとって、調理に直接関わった方より具体的な説明は食事をさらに美味しく引き立てるものとなります。



また、当施設では天気の良い日に入所者が散歩する姿をよく見かけます。数年前、福寿園では「四季の丘」と命名された庭園を設け、その庭園に安置されている観音様へお参りする方のために遊歩道を新たに設置しました。昨年、庭園の入口付近までしかなかった手摺を庭園内にある観音様の目の前まで延長し、自由に歩行ができるよう、なるべく段差や障害物を無くしました。安心して外に出られる環境整備は入所者が居室に籠りがちにならないよう、それぞれの健康維持、増進に役立っています。今年も四季の丘には満開の桜が咲き誇りました。入所者は毎年この季節を心待ちにされています。



ショートステイの受け入れも随時行っております。  
待機者はございません。入所相談等ありましたら、  
ぜひご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

平成22年 5月24日(月)現在

定員 80名 現在入所者 80名

ショートステイ:定員4名 現在入所 3名

担当者:生活相談員:山森達也 主任支援員:林美恵子

〒441-3413

愛知県田原市六連町神ノ釜 9-3

TEL:0531-27-0008

FAX:0531-27-0828

URL: <http://www.fukujuen.or.jp>

E-mail: [honbu@fukujuen.or.jp](mailto:honbu@fukujuen.or.jp)